

1 学校教育目標 本校の歴史と伝統を重んじ、連続と受け継がれてきた「誠」の教育と、たくましい開拓・干拓精神の維持高揚に努めると共に知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな有明東小学校の子どもを育てる。	2 本年度の重点目標 ① 学力の向上(教職員の資質向上を含む) ② 心の教育の推進 ③ 健康・安全教育の推進 ④ 学校運営協議会制度を導入した学校づくり
--	---

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 学力の向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●学力向上	考える授業の創造	・考えることを楽しいと答える児童の割合を80%以上にする。 ・授業研究会を年8回以上行い、指導力の向上を目指す。	・考える楽しさを味わわせる授業作りを工夫する。	A	・児童は学習に進んで取り組んでいる。アンケートでも「考えることが楽しい」と答えた児童は86%で、授業づくりが工夫されている。全学級で研究授業を行い事後の研究会で、研修を深め、指導力の向上を目指すことができた。 ・授業研究会を年9回行った。	・今後も「めざす児童像」を全職員で共通理解し、児童が自ら進んで学ぶことに取り組む授業の工夫改善や学習環境の整備を行う。 ・学習状況調査を分析し、課題克服に向けて視写等の具体的な対応策を考え、学校全体で取り組んでいく。
教育活動	○図書館教育	図書館の授業活用	・図書館の図書を活用した授業を年1回以上全学級において行う。	・国語科で各単元の関連図書を活用した授業を行ったり、他教科においても積極的に図書を活用した授業を仕組んだりする。	A	・ほとんどの学級において、授業の中で、図書を活用した発展的な学習に積極的に取り組んでいる。	・司書と連携して、関連図書をそろえ、それを教室に置いて気軽に手に取れるようにするなど、計画的に準備することが必要である。
	○読書	読書の奨励	・図書を年間100冊以上借りる児童の割合を90%以上にする。	・全校で時間を統一して朝の読書タイムに取り組む。 ・毎日クラス別の貸出冊数を放送したり、月ごとの貸出冊数を担任に知らせるなどして、担任と協力して読書の推進に取り組む。	B	・100冊以上借りることができた児童は85%であった。4、5、6年の達成率が低かった。 ・長い読み物の本を楽しめるようになった児童が増えた。 ・朝の読書タイムは、全校で静かに取り組む雰囲気づくりができた。	・高学年の児童が定期的に本を借りるように、担任と情報を共有して個別の声かけを強化する。 ・図書室でのイベントや100冊達成者へのプレゼント等を継続し、図書室に行きやすい環境づくりに努める。
教育活動	○体育学習の充実	たのしい体育の実践	・体育の授業が楽しいと感じる児童の割合90%以上を目指す。 ・運動が楽しいと感じ、進んで運動に親しむ児童の割合90%以上を目指す。	・学習カードを活用した体育の学習を継続して行う。 ・めあてやふりかえりを大切に学習を行う。	A	・児童の99%が体育の学習を楽しんでいると感じ、意欲的に取り組んでいる。 ・外部指導者との連携を図り、学習過程やめあて・ふりかえりを意識した学習を進めることができた。	・学習のねらいや道筋を意識した学習過程を全学年で共通して取り組めるよう、資料等を積み重ねていく必要がある。 ・外部指導者と取り組んだ単元の掲示物を残している。

② 心の教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめの実態把握	・「いじめをしている」「いじめを受けている」児童を0人にする。	・定期的に調査(職員・児童・保護者)を行い、児童の実態を掴む。 ・全職員で連携して全児童をみとる。 ・いじめ防止対策委員会を開催し、学校の取組について意見を聞く。	A	・定期的にいじめについてのアンケートを実施した。アンケートだけでは把握できない懸案事項については詳しく聞き取り調査を行った。	・アンケートの実施とともに、子どもたち一人ひとりから話が聞けるような時間の確保に努める。 ・全職員で、学校生活の中での子どもの見取りをするとともに地域の方からの情報も生かし、保護者との連携を図っていく。
		学級集団の質の高揚	・「安心して学び合うことができる」と答える児童の割合を90%以上にする。	・授業や日常活動の中で、共に聴き合い学び合う場を意図的に設定する。 ・保護者と連絡を取り合い、共に児童を支えていく。 ・スクールカウンセラーなどの外部機関と連携しながら児童の困り感を軽減する。 ・Q-Uの活用及び研修会を実施する。	B	・学校や学級での生活が楽しいと回答した児童が94%であった。 ・児童会活動の中に、児童のよさを見つけ、認める取り組みを行った。 ・困り感を持つ保護者に積極的にスクールカウンセラーへの相談を勧めることができた。 ・学級づくりについてQ-Uアンケートはとったが、その活用が不十分であった。	・学校生活の様々な場面において、共に支えあい、認め合う場を設定していく。 ・配慮を要する児童についてスクールカウンセラー等と連携し支援の方法を協議していく。 ・学級づくりの研修会を定期的に行う。
教育活動	●心の教育	自治能力の育成	・学級や学校の課題に気づき、みんなで話し合い改善していこうとする児童の割合を85%以上にする。	・学級会の議題を考えることで、課題に気づく視点を育てる。 ・児童集会や縦割り班活動などの企画、運営をさせることで、自分たちの力でより良い学校生活にしていこうとする自覚を育てる。	A	・全校的な課題について縦割り班を中心に話し合い、あいさつとそうじの充実に取り組むことができた。議題募集から話し合い、実践へと、より良い学校にするために全校で取り組むことができた。	・縦割り班での活動を、児童会活動の活性化につなげることができるようリーダー指導の工夫が必要である。 ・学級会での議題の出し方や話し合いの仕方の指導を充実させることが、児童会活動の充実につながる。
		挨拶の奨励	・いつでも、どこでも、誰にでも、さわやかなあいさつができる児童の割合を90%以上にする。	・定期的に地区ごとのあいさつ運動を実施する。 ・各学年で児童の実態にあった挨拶のめあてを考え、遂行する。	B	・地区ごとのあいさつ運動を実施し、元気に参加することができた。 ・各学年で挨拶の指導をし、学校では挨拶ができていた。しかし、保護者の当番日誌等からは、いつでも、どこでも、誰にでも、元気な挨拶をすることは、充分とは言えない。	・全校朝会やグループ朝会、集団下校時に、挨拶の大切さを児童に伝え、模範となる児童やグループを紹介するなどしてさわやかな挨拶ができる児童を増やしていく。
		自己肯定感の醸成	・自分の良さに気づき、自分を大切にしようとする児童の割合を95%以上にする。	・帰りの会などで友だちの「いいこと見つけ」をし、互いに認め合う場を設定する。 ・道徳の時間を核としてすべての教育活動において児童の心を耕していく。	B	・各学級でのいいこと見つけや、運営委員会の「いいこと見つけて桜の木を満開にしよう」という取り組みで、互いに認め合い自己肯定感が上がっていった。 ・学習面でのつまずきでやる気をなくしたり、友だち関係がうまくいかなかったりして、自己肯定感を下げしまっている児童がいる。	・自己肯定感をあげるために、児童理解に努め、個に応じた支援の充実と、仲間づくりや出番づくりが不可欠である。計画的な場の設定を図っていく。

③ 健康・安全教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	基本的な生活習慣の確立	・「早寝・早起き・朝ごはん」を推奨し、朝食の喫食率を90%以上にする。	・「生活アンケート」を年に2回実施し、児童の実態を把握する。 ・学級指導や学級活動・保健・家庭科等の授業の中で日々指導と声かけをしていく。	A	・2月にとったアンケートからは、「しっかり食べた」85%、「少し食べた」15%で、朝食の喫食率は100%であった。しかし、内容的に「パンのみ」「おにぎりのみ」といった単食の児童も多く、今後も食育の啓発が必要である。	・毎日健康観察の際に問いかけることを継続してきたことにより、朝食をとることに意識づけができていく。今後も栄養バランスの重要性も含めて「食育」指導をしていく必要がある。

④ 学校運営協議会制度を導入した学校づくり

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○地域・家庭との連携	地域貢献	・地域行事等への児童の参加率を80%以上にする。	・地域行事や空瓶回収等への積極的な参加を呼びかける。 ・学校運営協議会において地域との連携の在り方について協議していく。	A	・地域行事等への児童の参加率は85%であった。学校で知り得た地域行事等について今後も積極的に参加を呼びかける。	・学校が地域行事の情報をしっかり把握し、学校・保護者・地域の協働体制を整えていく。
学校運営	○地域・家庭との連携	情報の双方向発信	・「学校や児童の様子が分かる」「学校は相談しやすい」と回答する保護者の割合を90%以上にする。	・学校だよりや学級だより、HP等を活用し学校の教育活動に関するあらゆる情報を継続的に発信していく。 ・困ったことや悩み等が相談しやすい体制を整えていく。	A	・学校や児童の様子が分かるように情報提供していると回答した保護者が99%であった。また、学校や児童のことで気になることがあると、学校に連絡が入り素早く対応していった。	・今後も学校の教育活動等について時期を得た情報発信を継続していく。また、SCとの連携した相談体制を整えていく。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●教育の質の向上に向けたICT利活用教育の推進	ICT利活用教育の推進	・児童の情報モラルに対する意識を高める授業を年に1回以上実施する。	・ICT支援員と協力し、児童にタブレットPCを活用させながら、情報モラルの意識向上を図る。	A	・情報モラルに関する授業を全クラス1回以上は行うことができた。3年生以上の児童や保護者を対象に、スマホと学力についての講話を実施し、意識向上のきっかけとなった。	・タブレットPCのスケジュールを早めに伝達し、ICT支援員と協力しながらタブレットを活用した学習や情報モラルの意識向上を図りたい。 ・民間企業から情報モラルの講演を依頼するなどして、保護者への情報モラルの意識向上を図りたい。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

全体的に、概ね良好な評価を受けることができた。学力向上のための取組については、コーディネーターが中心となり全国・県学習状況調査を分析し、今後の対応策を提案して全職員で検討し、共通理解のもと学校全体で取り組むことができた。今後も児童の実態をしっかりと捉え、さらに学力向上につながるよう指導法の工夫・改善をしていきたい。いじめと認知された事案はゼロであった。しかし、友達同士のトラブルは見られた。しっかりアンケートを張って児童理解に努めていきたい。また、保護者の授業参観や行事等への参加は多く、様々な面において非常に協力的である。しかし、家庭でのテレビ視聴やゲームの時間については課題が残った。今後、PTAと連携した取り組みを図っていきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目